

第16回国際エイズ会議参加報告



結核予防会国際部
剣 陽子

カナダ・トロントにて開催されました第16回国際エイズ会議に参加して参りました。本会議の会期は8月13日～18日だったのですが、本会議の前にも様々なグループやテーマによるプレカンファレンスミーティングが開かれ、私も本会議だけでなく、結核/エイズ対策に主眼を置いたプレカンファレンスミーティングにも参加することができました。

会議参加者は170カ国から24,000人!! 会期中は、トロントの街はエイズ会議バックを持ち、ネームカードをぶら下げた、世界各国から集まった人びとで賑わっていました。エイズ会議は、さながらお祭りの様相を呈します。会議/学会というと、専門家だけが集まる、堅苦しい会のイメージがあるかもしれませんが、エイズ対策では「コミュニティ」や「当事者」の活動も大きな役割を果たします。「当事者」というのは、「HIV感染者自身」であり、またHIV感染に対して脆弱な立場にある「女性」「若者」「性産業従事者」「静脈注射薬物乱用者」「男性同性愛者」「移民」「少数民族」等々であり、こういった人たちも会議に参加し、自分たちの活動を紹介したり、様々な議論を交わしたりします。また社会や各国政府へのアピールという観点から、著名人が参加したセッションもありました。エイズ対策に多額の資金を提供しているビル・ゲイツ夫妻やビル・クリントン前米大統領、そして俳優のリチャード・ギアや歌手のアリシア・キースも招かれていました。

議論されるテーマも様々ですが、本稿では特に「結核/エイズ対策」という観点でどのようなことが行われていたかについて、述べたいと思います。特にアフリカなどのHIV高蔓延国では、結核/HIV重複感染者が多く、結核対策とエイズ対策が強固に連携した活動が必須になります。しかし、現実ではこの二つの対策は別々に行われていて、なかなかうま

く機能していないことが多いのです。世界各国を見渡しても、具体的な対策活動が走っているところは少なく、今回の会議でも、まだまだ連携を訴えている段階ではないかと感じました。また、現場で、どうやって結核/エイズ対策を運営していくのか苦悩している者も多く、具体的な対策事例が求められていました。私も、現在従事しているカンボジアにおける結核/エイズ対策の活動事例について（プノンペン市内における結核/エイズ対策の現状と問題点及び結核/HIVコーディネーターによるモバイルVCT*：HIVテストとカウンセリング活動の実際について）発表したのですが、「どのようなスタッフを結核/HIVコーディネーターとして育成したのか」「どのくらいの頻度でモバイルVCTを行っているのか」など、具体的な質問を受けました。私自身も、他の国における対策事例を学ぶことができたり、情報交換をすることができたりしたことが、一番の収穫だったと思っています。

閉会式前の、会議のまとめのセッションでも「今後、結核/HIV対策に一層力を入れていくことの重要性」「イソニアジドによるHIV感染者の結核発症予防の普及」が強調されました。今後、世界が結核/エイズ対策の重要性により注目し、重複感染に苦しむ人々に効果的なサポートが行われていくことを期待したいと思います。

*VCT (Voluntary Counseling and Test, 自発的なHIVテストとカウンセリング) …他の人や医療従事者に強制されることなく、患者の意思で行われるHIVテスト。必ずテストの前後にカウンセリングを行います。その上、HIVに対する偏見・差別は他の病気と比べものにならないため、プライバシー保護として匿名で行います。日本の保健所での無料・匿名検査も同じ原則で行われています。



セッションIの様子



レズビアン・ゲイ・性同一障害者によるブース